

# 『みすてりい』

ひおか かがり  
緋岡 篝

2022年度

山口県高等学校演劇大会最優秀賞受賞  
中国地区高等学校演劇発表会優良賞受賞

## 作品紹介

有能な女医が失踪。何が彼女を追い詰めたのか？ 『山月記』の虎に自分をたどらせる照井。彼女の上にはガラスの天井が覆いかぶさっていた。彼女を救うのは何？

## 登場人物の数

十一名〜十三名程度 光高校は、広岡めいと幸村愛、広岡美穂と飯高保奈美を兼ねました。

## 上演許可を得るための連絡先

drama.club.at.hikari.city@gmail.com

## 13分動画を観覧いただけます

[https://www.youtube.com/watch?v=cAde457XBmE&list=PLGgfsINFSmBfEO2epnki7BDUHKGgpa\\_ZO&index=4](https://www.youtube.com/watch?v=cAde457XBmE&list=PLGgfsINFSmBfEO2epnki7BDUHKGgpa_ZO&index=4)

この作品の趣旨を御理解いただいております。時代や上演団体に合わせて自由に改変いただいてもかまいません。



# 『みすてりい』

緋ひ岡おか  
篝かがり

照井 冨 三十前半 小児科医  
上原 龍也 小児科長  
矢田 優斗 若手小児科医  
仙波 弥生 看護主任  
飯高 保奈美 中堅看護師  
河合 香菜 新人看護師  
マリア デラクルス フィリピン人の研修生  
幸村 愛 産休に入る看護師  
中塚 由美 患者の母  
広岡 めい 患者  
広岡 美穂 めいの母  
森元 気 小学校教師  
照井 誠子 照井の母

## #1 回想①虎蠢く夜

七月十九日火曜日、生温い夜。地方の総合病院の屋上。照井が電話で話しながら、イラ  
イラと歩き回っている。照井の声は時折猛獣の遠吠えに聞こえる。

照井 そう、私の話。だけど十五年経っても飼いやらない。お願い、自由にさせて。殺  
す？

照井が電話を切る。  
暗闇の中から声が響く。

声 君は自由だ。ミス・テリーってあだ名、僕は照井さんっぽくて好きなんだけどな。  
すつと遠くに行ってしまうような、ミステリーなんだよな。僕のために、生きて。

照井 (獣のように吠えて) うおおおおおお。

飯高 照井先生？ 照井先生、助けてください。

照井 何。

飯高 智樹君の喘鳴がひどくて。矢田先生が対応してますけど。照井先生じゃないと。  
照井 行きます。

#2 失踪の日①誰の所為

翌七月二十日朝。五階、小児科ナースステーション。小児科若手医師の矢田が椅子でだらっとしている。主任の仙波、中堅看護師の飯高が慌ただしく働いている。

仙波 (矢田に) だから、照井先生と連絡が取れないんです。

飯高 主任、照井先生のマンション行ってみるとか。

仙波 病棟、どうするの。

飯高 ですよ。

仙波 とにかく、病棟回さないと。お願いしますよ、矢田先生。

矢田 疲れてんだよ。

仙波、忙し気に退場。小児科長の上原、速足で入ってくる。矢田、慌てて立ち上がる。

上原 照井君は？

飯高 まだです。

矢田 寝坊じゃないすか。

飯高 自分と一緒にしないでください。

上原 電話入れてみた？

矢田 かけてみるよ、電話。

飯高 (テーブルのスマホを持ち上げ) これ。

上原 何。

飯高 照井先生のです。

照井のスマホに着信。飯高、スマホを確認。

上原 照井君？

飯高 いえ、照井誠子。照井先生のお母さんです。出ますか？

矢田 ヤバイ毒親、殺される。

上原 何、矢田君。

矢田 照井先生、しょっちゅう置いて帰るんですよ。

上原 とりあえずマナーモード。

飯高、スマホを操作する。研修生のマリア、下膳途中に入ってくる。

マリア (上原に) パワハラ先生、ミス・テリーいない。

上原 ミス・テリー。

矢田 照井先生です。

マリア ミス・テリーいない、言ってる。

上原 君はいい。

矢田 マリア行っとけ。

マリア、あからさまにむっとして下膳に戻る。

上原 矢田くん、回診入って。終わったら、外来ね。

矢田 当直明けなんですけど。

飯高 上原先生いいですか。昨日、照井先生、ちょっと様子がおかしかったんですけど。

上原 何。

飯高 屋上で、うおおおおおって。

上原 屋上？ 怖いこと言わないでよ。

飯高 私、言っちゃったんですよね、上原先生の話。

上原 何。

飯高 ポストンに照井先生が選ばれなかったのは、女だからって。

上原 僕は言っていないよ。

飯高 聞きましたけど。

上原 勝手なこと言ってもらっちゃ困るよ。ねえ、矢田君。

矢田 はっ。

飯高 私、心配で。あれから山下智樹君の急変もありましたし。

矢田 主治医の私が不甲斐ないばかりに、すみません。

上原 七、八年もやってきた中堅とは言え、照井君も女性だからなあ。母性ゆえに死を受

矢田 きついです。

飯高 (嫌味っぽく) 矢田先生はナースステーションで休んでばかりですけどね。

矢田 (必死に) 癒し無しでは働けないよ。このブラックな職場じゃ。

上原 ゆとり世代は。(大きなため息)

ナースコールが鳴り、飯高が出る。マリア、入ってくる。

飯高 はい、どうしました。空くん、照井先生まだ来てないんだよ。検査、待っててね。

マリア (上原に) パワハラ先生、やっぱりいない。

矢田 何言ってるんだよ。上原先生ね。

マリア ミスター・ヤダ、いつも、言ってる。パワハラ先生って。

矢田 (咳払い) 君は黙るときなさい。

マリア、矢田に追い払われる。

上原 朝からうるさいな君は。

矢田 は。照井先生のピンチヒッターお任せください。

上原 終わり次第、外来に降りてきて。

河合、登場。上原、退場。

河合 (欠伸をしながら) おはようございます。

矢田、河合のもとに走り寄る。

矢田 河合ちゃん、照井先生いないから、ディナー行けないかも。

河合 照井先生いないんですか。  
矢田 照井先生が来たら、行けるからね。  
飯高 矢田先生、回診いきますよ。  
矢田 河合ちゃん、行くよ。  
飯高 私が行きます。

マリア、戻ってくる。森、何かを探している様子で病室前に登場。

矢田 もう、飯高ちゃん、僕、癒されたいんだよ。

飯高 私だって癒せますよ。

矢田 照井先生の分まで働いてるんだよ。

河合 お疲れ様です。

マリア ミスター・ヤダ、また仕事ヤダヤダ？

矢田 マリア、ヤダヤダ言うな、ドクターと言え。

飯高 マリア、回診行く？

マリア 行く。

矢田 (マリアに) いや、仕事してるからね、僕は。すべき分は、肅々と。

マリア (ワゴンを押して病室へと向かいながら) アイミッシングミス・テリー (The missing Miss Terii.)

森 ミス・テリー。

矢田 縁起でもないから、ミスミス言うなあ。

マリア レッツゴー。

矢田 待てよ。

マリア ヤダ。

マリア、矢田退場。照井のスマホが鳴る。森、カウンターに置かれたぬいぐるみの傍から盗み聞く。

河合 スマホ？

飯高 照井先生の。

河合 照井誠子。

飯高 お母さん。

河合 照井先生がいない病院って、私、初めてかも。

飯高 私、やっぱりマンションに行ってみた方がいいと思うんだよね。

河合 照井先生の家、知ってるんですか。

飯高 知らないんだけど。

河合 じゃあ、ダメじゃないですか。

飯高 嫌な予感する。余計な事言っちゃったよな。まだ引きずってるとか思わないからさ。

河合 ポストンですか。

飯高 なんて知ってるの。

河合 エリート初めての挫折って聞きました。

飯高 そう。照井先生の方が全然優秀なのに、ぱっとしない私と同一年が選ばれてさ。ってことは年下なんだ。

飯高、森に気づいて、声をひそめて河合に話す。

森 (何かを見つけたかのように) こんなところにあった。(離れていく)

飯高 あの人ヤバくない? クマ触ってたし、キモイ。

河合 お見舞いですかね。

飯高 面会時間まだよ。

河合 外来と間違えてるとか。

仙波が帰ってきて、二人の視線を追い、森に声をかける。

仙波 どなたかお探しですか? 面会時間までもう少しあるんですけど。

森 あ、いえ、大丈夫です。では。

森、笑いながらあちこち見まわして去る。河合、飯高二人で騒ぎ出す。

河合 飯高さん。

飯高 やばいね、あいつ。どうしよう、あいつに照井先生が誘拐されたんだったら。

河合 いや、それはないでしょ。

内線が鳴り、仙波が応答。河合、仙波の不機嫌な様子に慌てて仕事に戻る。

仙波 小児科病棟、仙波です。そんなはずは。(受話器を押さえて) 飯高さん、空くんの

検査行ったよね。

飯高 まだです。

仙波 (むっとして) なんで。

飯高、イラツとして立ち上がる。

仙波 すぐ行かせます。(受話器を置く)

飯高 空くん、検査前に照井先生が診察するんですよね。

仙波 それ聞く? 照井先生がいらないんだから、分かるでしょ。

飯高、病室に向かう。入れ替わりに患者のめいが車椅子で入ってくる。

めい 主任さん、照井先生がいなくなっちゃって本当?

仙波 そんなこと、誰が言ったの。

めい 矢田先生。

仙波、ため息。ため息の先に手を伸ばして取り戻すかのような仕草。

仙波 照井先生は、まだ来てないだけよ。

めい もう来ないかも。見て。(手帳を差し出して) 照井先生の手帳。

仙波 ありがとう、めいちゃん。  
河合 また、照井先生のおきっぱだ。ありがとう、めいちゃん。どこで見つけたの。  
めい (手帳を開いて) ねえ見て。死ぬって漢字が大きく書いてある。  
河合 (仙波を見て) 大丈夫ですかね。  
仙波 あるでしょ、そういうこと。  
河合 (驚いて) ありますか。  
仙波 (無理に納得しようと) あるんじゃないの。  
河合 そういえば、昨日、私とマリアのせいで。  
仙波 何。  
河合 照井先生が、上原先生に怒鳴られちゃって。  
仙波 聞いてないけど。  
河合 すいません。  
仙波 やめてよ、そういうの。  
河合 大事にはならなかったんですけど、検査で患者さん取り違えそうになっちゃって。  
仙波 何言ってるの、大事でしょ。  
めい 違うの、めいのせいなの。めいが、大嫌いって言ったから。  
仙波 めいちゃんのせいじゃないよ。照井先生は、強いから、大丈夫。  
めい 泣いてたもん。照井先生、死んじゃうかも。

溶暗。

#3 回想②迷い

失踪前日、一九日昼下がりに。ナースステーションで上原が照井に怒鳴っている。奥には、河合。矢田やマリアが次々に戻ってくる。

上原 照井くん、どういうこと。

矢田 (河合に) なになに。

河合 由紀ちゃんの検査に、祐樹くんを連れて行っちゃって。取り違え。

照井 河合さんが気づいてくれたので、事なきを得たと聞きましたが。

上原 事なき。大事だよ。認識が甘いだろ。人の命を扱ってるってこと、分かってる？

照井 もちろんです。

上原 なんでフィリピンの彼女に書かせるかな。僕、言ったよね。適当にあしらってけつて。

照井 マリアが問題ですか。

マリア 私、ちゃんと書いた。506大野由紀、書いた。確認しない、河合ちゃんダメ。

河合 なんで私のせい。平仮名で書いてくれたら、こんなことにならなかったよね。

マリア 平仮名、時間かかる。ミス・テリー、オーダー、速い。

上原 照井くん、どうするの、これ。

照井 河合さん、ローマ字が問題なの。

河合 はい。大野ゆきちゃんと小野祐樹くんは、どっちも、ONNO YUKIなんです。

照井 どちらも、506号室ですし。病室も同じ。

河合 はい。  
矢田 ダメだ。

照井 すみません。私のミスです。

上原 これが手術だったら、どうする。

矢田 医療事故だ。

上原 責任とれるの。

照井 すみません。

上原 いい？ フィリピンの彼女は、下膳とか清拭とか、無難なことしてもらってマリアなんで？

照井 納得できません。マリアは研修のために来てるんです。おかしくないですか。上原 だから、そんなきれいごと言って、責任、取れないでしょ？

照井 二度とミスが起きないように工夫します。

上原 医療は、チームプレーだよ。一人、理想論で突っ走られちゃ、回らないよ。

矢田 確かに。

ナースコールが鳴り、河合が出る。妊婦の幸村登場。仙波も幸村の荷物を持って登場。

幸村 先生方、お世話になりました。

照井 お大事にしてくださいね。

矢田 (気まずそうに) ああ。

照井、カルテの確認作業をする。マリア、席について看護記録をつけ始める。

上原 幸村君、このたびは、いろいろとおめでとう。できちゃった婚とか、最近はずい

よね。職場崩壊だ。

仙波 上原先生、それはちよっと。

上原 僕はね、矢田ちゃんと結婚するんだと思ってたよ。ほら、ジューチームで会ったでしょ、クリスマス。

照井、河合と代わってナースコールに応える。

矢田 (河合を気にしながら遮って) ああああああ。

上原 矢田くん、何。

矢田 個人情報漏洩の危機管理です。

上原 幸村くんがナースでよかったよ。ドクターだったら、もう。

矢田 照井先生は(照井の動向を気にしつつ)ないでしょう。

照井、ナースステーションを出ていく。

矢田 女捨ててますからねえ。

上原、矢田、笑う



上原　じゃあ、幸村くん、元気な赤ちゃん産んでね。

上原、笑いながら退場。飯高、夜勤シフトとして登場。

飯高　お疲れ様です。

幸村　（去っていく上原に向かって）私、もう少し残りましようか。

仙波　いいのよ、幸村さん、権利なんだから。

幸村　すみません、本当にご迷惑をおかけしちゃって。

仙波　ゆっくり休んで。産休代替見つけるの、大変なんだけどね。（ため息をつき捨つ）

幸村　その分、育休明けにはバリバリやらせてもらいます。

仙波　（慌てて）幸村さんはご両親も近くにいらっしゃるし、安心よね。

ナースコールを取った河合が、ナースステーションを出ていく。

矢田　（河合を気にしながら）ゆっきい、ひどいよ、ディナーおごらせておいて、食い逃げか。

幸村　その節はごちそうさまでした。

矢田　普通のサラリーマンで良かったの？

仙波　矢田先生、今更何、言ってるんですか。幸村さんの旦那さん、イケメンなんですよ。

矢田　くうっ。

幸村　はい。

矢田　きつと苦労するよ。

幸村　大丈夫です。愛されてるんで。

矢田　うわあ。なに、その自信。お幸せに。

仙波　じゃあ、幸村さん送ってくるから、お願いね。

幸村　いえ、大丈夫です。

仙波　いいのよ、送らせて。

幸村、仙波、去りかける。マリア、幸村に駆け寄り、抱きしめる。

マリア　ゆっきい。

幸村　どうしたの。ベイベー連れてくるね。

マリア、小さく手を振り、席に戻る。河合、照井、それぞれ戻ってくる。

照井　（幸村に）暑いから気を付けてくださいね。

幸村　乳児健診、楽しみにしてます。

河合　お幸せに。

幸村　ありがとう。

飯高　またね。

幸村　うん。

幸村、仙波、退場。

飯高 (幸村が去ると) 私も休みが欲しい。連勤、連勤、勘弁してよ。  
河合 お疲れ様です。こればかりは授かりものですから。代替が見つからないのは、幸

村さんのせいじゃありませんし。

矢田 僕と二人で授かってみる、河合ちゃん。

飯高 矢田先生、病棟で下ネタはやめてください。

矢田 僕の口説きを下ネタだなんて。

飯高 処置行きますよ。

飯高、処置に行こうとする。

矢田 (ノロノロと重い足を引きずりながら) デスマーチ。

飯高 早く行きますよ。

矢田 は、はい。

矢田と飯高、退場。照井、泣いているマリアに気づく。

照井 マリア、これからどうしたらいいか一緒に考えよう。

マリア アイワナゴーホーム(I want to go home) マミーになりたいよ。

照井 でも、日本でナース、必死に頑張るんですよ。

マリア アイルゴーホーム(I'll go home)

照井 フィリピン帰るの？

河合 そんなこと言わないで。さっきはごめん。

マリア 私、フィリピンで、マミーみたいなマザーなる。

照井 (大きなため息をつく) フィリピンでお母さん。

河合 (照井の様子を見て焦って) 照井先生、マリアのために戦ってくれたんだよ。

照井、大きなため息をつく。

照井 いいのよ。マリアの人生なんだから。

河合 え。

マリア マミーなる、マイドリーム。

河合 (コソコソと) うん、わかるよ。私も、ドクターのワイフ、ドリーム。

マリア ドクターズ、ワイフ(Doctor's wife?)

河合 イエス。

マリア ドクター矢田。

河合 やだ。

マリア げ。

照井 へえ、すごいね。なんか。

河合 あ、三ヶ月しか働いてないのにすみません。

照井 あなたの人生だから。

河合 子ども、大好きなんです。早く母親になりたくて。アイ、ラブ、チルドレン。

マリア イエス。ベイビーズアースリースイート。(Babies are so sweet.)

河合 子どもを傍で見たいから、家に入りたくなって。  
照井 辞めちゃうの。

マリア (照井の険しい表情を見て) ミス・テリー、マミーなる、いや？

河合 照井先生が結婚なんて。

マリア なんて？

河合 私たちとは出来が違うもん。

マリア デキ？

河合 ミス・テリー、スペシヤル。

マリア オー、スペシヤル (Oh, special!)

照井 なんてそんな風に迷いなく決められるの。

河合 照井先生、迷ってるんですか。

マリア マヨ？

照井 私にはなんにもないから。がむしゃらにやったら、きっと何かが見えるってやってきたけど、何も見えない。

河合 (手で双眼鏡を作り) 何も見えない (笑って) ミス・テリー、イズ、ミステリー。

マリア ヤー。ミス・テリー、イズ、ミステリアス。(Yeah! Miss Teri is mysterious!)

照井 それ高校時代のあだ名。

河合 ミス・テリー？

マリア あだ、な？

河合 (マリアに向かって) ニックネーム。

照井 すごく嫌いだった。

河合 え、なんで。

照井 あなたには分からないかも。

マリア ミス・テリー、いや？

照井 いいの。

マリア ミスター・テリー、なりたい？

照井 男だったら悩まなかったか。

河合 ポストンのことですか。

照井 なんで、あなたまで。

溶暗。

#4 回想③決めつけ

失踪前日、十九日夕方。カンファレンスルーム。照井が、患者の母親中塚に息子良太の症状について確認している。そばには飯高がついている。

中塚 あんた、バカにしとるやろ？

照井 そんなことはありません。

中塚 そんなこと、ってなんなんかつちや。

照井 ずいぶん前の傷もありますけど。

中塚 なに、その上から目線。

照井 良太君は元気なお子さんですよ。

中塚 話変えんなつちや。

照井 (苦笑いして) 上から見てるつもりはないんですよ。  
中塚 笑った？ 笑ったやろ、笑ったやろ。なんで笑ったんか。謝れ。

中塚、照井に迫る。照井、飯高、怯える。

中塚 謝れつつてんだよ。  
照井 すみません。

中塚 何様か。それが謝る態度か。医者じゃけえって偉そうに。お前らあとは住む世界が違ってくるに思っちゃるんじやろ。

照井 そんな言い方になっていたらすみません。

中塚 何、そのすました感じ。

照井 中塚さんも良太君にずっとついていらっしやるのは。

中塚 私が悪かったって言いたいん？

照井 ここまでこじらせる前に…。

中塚 全然わかってない。お前、子供おらんじやろ。(飯高に) ちょっと主治医変えてもらえん？

飯高 照井先生が一番いい先生です。

中塚 こいつが一番ええって、ありえんじやろ。上のもん、呼んで来い。

飯高 (しばらく照井の顔色を窺い) どうしますか。

中塚 上のもん呼んで来いってんだよ。

飯高 (照井と顔を見合わせ) お待ちください。

飯高、退室する。

上原、矢田が休憩室で歓談している。途中から、飯高が入ってくる。

上原 国立大学の医学部なんて、どれほど税金が投入されてるか。

矢田 安いですもんね。

上原 女子の方が出来がいいんだよね。だけど、結婚だ、出産だって退職したら、税金の無駄遣いだからね。結局、男子を優遇することが社会のためなんだよ。

矢田 で、照井先生は、ボストンを外された。

上原 推薦人としては、無責任なことできないからねえ。

飯高 (直前の会話を驚きながらも、用件を伝えようと) 上原先生、すみません。中塚良太くんの母親が、照井先生に絡んで、上のもん呼んで来いって言うてるんですけど。

矢田 元ヤン、虐待母。

上原 勘弁してよ。照井くんの患者の母親でしょ。僕、ヒステリー苦手なんだよね。

矢田 男は、ロジカルに話したいですからね。

飯高 でも、上のもん呼んでこいって繰り返してて。

矢田 どうせ照井先生が怒らせたんだろ。あの人と話していると、カチンとくるんだよ。

上原 あれじゃ、嫁の貰い手はないな。

飯高 上原先生、お願いできませんか。

上原 いや、照井くんに任せよう。彼女なら、大丈夫。

飯高、医局を出て、仙波に泣きつく。仙波、要件を済ませてから行く旨を伝える。カンファレンスルームでは、中塚と照井のやりとりが続いている。

照井 私、よく言われるんですよね。話し方がカチンと来るって。

中塚 え。

照井 カチンと来ましたか。

中塚 あ、うん。

照井 どうしたらいいんですかね。

中塚 私に言われても。

照井 私も心配なんですよ。良太君のこと。お母さんにはかなわないと思いますけど。

中塚 へえ。

照井 分かっているんですかね。

中塚 医者じゃけえ、病氣のことは、私らより分かるとるんやろうけどさ。

照井 中塚さんのお手伝いが出来たらって。

中塚 どうせ私が虐待しとるって言いたいんやろ。

照井 なんで。

中塚 は？

照井 どうしてそう思うんですか。聞かせてもらえませんか。

中塚 (驚いてじつと見る) だって、みんなそう決めつけるんよ。どうせ、好きなことや

つとる馬鹿な母親じゃって。でもね、良太、本当に一瞬たりともじつとしたらん

んよ。止めようとしたら、すぐ泣き叫ぶんよ。ほかのだれかやったら、もっといい

母親になれたん？ それとも、こんな良太を産んだ私が悪いん？

照井 中塚さんは悪くないです。一人で頑張ってるすごいです。私、中塚さんのことを悪

い母親と決めつけた人たちが許せません。私、そんな人の目を気にする虎と戦って

るんです。ここんとここにずっといる虎と。

中塚 虎？ (鼻で笑って) あんた大丈夫？

飯高、カンファレンスルームに戻ってきて、雰囲気が変わっていることに驚く。

照井 虎？ 大丈夫ですかね、私。

中塚 笑える。

照井 中塚さん、良太くんのためにちょっと検査をさせてもらえませんか。

中塚 検査。それって。

仙波が入ってくる。

仙波 (問答無用で、照井と中塚の間に割って入り) 良太君ママ、どうしたん。もう疲れ

ちよるんやろ。今日は帰って眠りい。

照井 ちよっと待ってください。

仙波 今日はどう返しましょう。(中塚に) ねえ、こんなときに責められても。

照井 責める。

仙波 (中塚を追い立てながら) ほら、行きましよ、行きましよ。お疲れ様。  
飯高 いや、主任。

仙波 大丈夫、大丈夫、私に任せて。

中塚、何かを言おうと振り返るが、仙波に押されて共に退場。

飯高 (照井に) すいません。上原先生が来てくださらなくて、主任に泣きついてしまっ  
て。

照井 いいのよ。

飯高 上原先生ひどいんです。ヒステリー嫌いだから行かないって。

照井 先生らしい。

飯高 それに、三月のポストン、女だから、照井先生を選ばなかったって。

溶暗。

#5 回想④何故?

失踪前日、十九日深夜。めいの病室。コールが響き、看護師や照井が慌ただしく通り過  
ぎる。医療機器の音や親や医師たちの声が聞こえる。

めいの母、祈るように耳を澄ませていたが、そのうち、めいの寝顔を見つめる。

めい母 (布団の上から抱きしめ) こんな体に産んでしまって、ごめんね。

めい うん。(母の力が強くて思わず声が漏れる)

めい母 ごめん、起こしちゃった?

めい もう帰っていいよ。眠いから。

めい母 ごめんね。おやすみ。

母、退場。遠くから、患者の母親と思われる人の泣き声が聞こえる。寝がえりを繰り返  
していためい、起き上がり、耳を押さえ、すすり泣き始める。

疲れた表情の照井が通り過ぎようとして、めいが泣いていることに気づく。

照井 めいちゃん、大丈夫?

めい (謎解きの本を持って) この謎解き、凝りすぎ。

照井 そっかあ、謎解きかあ。

めい 501号室の子?

照井 起こしちゃったね。

めい めいも、もう、帰れないんだよね。

照井、答えられない。

めい お母さん、泣いてた。こんな体に産んでしまってごめんねって。めい、生まれてき  
ちやいけなかったんだ。

照井 そんなこと。

めい、何か悪いことしたのかな?

照井 そんなことない。

めい、生まれてきたくなかった。いいことなんて全然ないのに、なんで生まれてき

たんだろう。

照井　なんで生まれてくるんだろう。

めい　お医者さんのくせに分からないの。

照井　なんで、みんな、死んじゃうのに、生まれてくるんだろう。

めい　（怯えて）みんな、絶対、死ぬ？（照井が泣いていることに気づき）照井先生なん

で泣いてるの。

照井　（あわてて涙をふく）ごめん。

めい　先生も病気なの？

照井　ううん、大丈夫。

めい　嫌だ、治して。照井先生、治して。

照井　（立ち上がり、めいを抱きしめながら）めいちゃん、ぎゅってしていい。

めい、照井を突き飛ばす。

めい　嫌だ。照井先生大嫌い。出てって。

照井　ごめん。

めい　出てって。

めい、照井に、枕を投げつける。

めい　出てって。

めい、布団を被って泣き出す。照井、戸惑いながら、病室を出る。

めいの病室の外から二人の様子を見ていた仙波が、照井に話しかける。

仙波　お疲れ様です。

照井　ダメだ。

仙波　そういうときもありますよ。

照井　私、間違っただけだから。

仙波　間違っただけじゃないです。でも、嘘をつくのも優しさかな。だって未来のことは誰にもわか

らないじゃないですか。

照井　（ため息）やっぱダメだ。

仙波　（照井の吐いたため息を捕まえるかのような仕草をして）先生、ため息ついたら、

幸せ逃げちゃいますよ。

照井　（さらに大きなため息）私なんか医者になっちゃいけないかったんだ。

仙波　照井先生はうちの一番のお医者さまですよ。

照井　最低ですよ。成績がいいからって医学部とか。結局親のいいなり。

仙波　そうだったんですか。

照井　そうじゃないって信じたかったですけど。

仙波　私にとっては、子供たちを救ってくださるありがたいお医者さまですよ。

照井　救えてませんけどね。

仙波　子供たちは不安を抱えて生きてますから。私なんていつとも責められてばかり。でもそれが仕事です。もやもやをぶつけさせてあげるのが仕事。（ため息）おお

と幸せが逃げちゃう。(慌ててため息を捕まえる)

照井 (母の言い方をまねて) ほんと何にもできないんだから。

仙波 照井先生。

照井 何やってんだろ。

溶暗。

#6 失踪の日②千羽鶴

#2の続き。 ナースステーションには、仙波、河合、めい。

マリア、矢田とともに回診から戻り、飯高もやや遅れて戻ってくる。

めい 泣いてたもん。

マリア めいちゃん、泣いてる。ドクター・ヤダのせい。

矢田 僕は、照井先生も人間だったんだって言っただけじゃん。

マリア 知ラナカタ? バカ。

矢田 はあ。

河合 めいちゃん、大丈夫だよ。照井先生、きっと戻ってくるって。めいちゃんのこと大

事だからさ。

めい めい、本当にひどいこと言ったんだって。照井先生、もう来ないかも。

いつの間にか病棟に戻ってきて様子を見ていた森、めいに駆け寄る。

森 めいちゃんのせいじゃないよ。

看護師たち、警戒する。矢田、驚きのあまり河合の傍に寄り、払いのけられる。

矢田 うわあ。

河合 きゃっ。

飯高 不審者。

河合 変態っ。

飯高 変態?

マリア ヤバい人。

仙波 どなたですか。

森 僕は。

めい 森先生。

森 うん。

一同 先生?

森 はい。びっくり丘小学校の森です。

めい 四年一組担任の先生。元気もりもり森元気先生。

森 そうです。元気もりもり森元気です。

マリア もりもり。

森 はい。

飯高 マジか。



マリア ヤバい？  
森 いえいえ。

マリア 違う？

森 はい。

マリア ヨカタ。

森 はいこれ、プレゼント。謎解き、その二が出てたんだ。

めい ありがとう。

森 そうだ、千羽鶴。千羽鶴、車に置いてきちゃった。

河合 めいちゃん、良かったね。先生が、千羽鶴折ってくれたって。

森 折ったのは僕じゃないんです。右手、言うこと利かないんで。

河合 すいません。

森 いえ、大丈夫です。

めい クラスのみんなが、森先生の右腕なんだよね。

森 うん。みんながめいちゃんのことを思って折ってくれたんだ。取ってくるね。

森、退場。

めい うわあ、めっちゃ嬉しい。先生、みんなにありがとうって言ってね。

森 (声だけ) おっけー。

矢田 千羽鶴も来るし、めいちゃんは大丈夫だな。さあ、仕事、仕事。外来、外来。

河合 頑張ってください。

めい 矢田先生は、医者のかせにそんな迷信信じてるの？

矢田 え？

めい 千羽鶴なんて。

矢田 めいちゃん、僕は信じたいよ。みんな鶴を折ってる間、めいちゃんのことを思って

たんだよ。思いが強ければ、祈りは届くって。

マリア ドクター・ヤダ、クール。

矢田 はは、それほど。

めい めいは折る方がよかった。誰かのために鶴を折りたい。

一同、沈黙。河合、身振りで矢田にめいへの言葉を求めるが、矢田、言葉を継げない。  
内線が鳴る。マリアが取り、飯高に代わる。

仙波 (めいの傍に寄り) そうだね。

めい (矢田に) 困ったでしょ。めい、みんなを困らせてる。照井先生も、だから来てく

れないんだ。

仙波 困ってなんかないよ。めいちゃんがなんでも言ってくれた方が嬉しいんだから。

上原、登場。

上原 矢田君、なにか問題があったの。

矢田 いえ、回診終了しました。今、外来に降りるところでした。

上原 心配だから上がって来ちゃったよ。

矢田 ちゃんとやってますよ。

上原 主任、5歳児ベッド、追加できそう？ 熱性けいれんの患者入りたいんだけど。

仙波 かしこまりました。河合さん。

河合 準備します。

上原 この暑さで外来大変だよ。熱中症は出るわ、手足口病、アデノにRS。

仙波、上原の側に寄る。

仙波 上原先生、すみません。さっき照井先生が落としたものに死、って書いてあったんですけど。

上原 死？

仙波 はい。手帳に。

上原 悪い冗談はやめてよ。

仙波 昨日の夜もちよっと様子がおかしくて。

上原 飯高君も言ってたな。

仙波、上原に会釈し、マリアを連れて病室に退場。めい、仙波についていく。

矢田 上原先生、あれが原因じゃないですか。

上原 あれって何だよ。それを言うなら君だろ。

矢田 僕ですか。

上原 なんだよ、その言い方は。さっさと外来に戻れ。

矢田 その言い方、大丈夫かな。

上原 ええっ。

#7 失踪の日③桃

照井の母が桃の入った段ボールを抱えて足早にやってくる。

照井母 照井でございます。

飯高 (誰に言うともなく) うわ、このタイミング。

照井母 いつも娘がお世話になっております。

ナースコールが鳴り、飯高、照井母に対応できずに、コールに回答する。  
タイミングよく戻ってきた河合が、照井母に対応する。

矢田 パワハラ訴えに来たんじゃないんですか。

上原 誤解を解いてくれよ。

矢田 誤解。

上原、矢田、退場。

河合 (照井母に気づいて) お伺いいたします。

照井母 山梨の親戚が桃を送ってきたので、皆さんに召し上がっていただきたくて。

河合 あ、そういうのお断りしてるんですよ。  
照井母 え、どういうことですか？ 私、照井の母ですが。  
河合 申し訳ございません。当病院では、患者様からのお心づけはお断りしております。

飯高、ナースコールに応答しつつも、河合を身振りで止めようとしている。

照井母 ですから、私は照井の母です。

河合 申し訳ございません。ご家族さまからのお心づけも固くお断りしております。

照井母 ちよつとあなた、私、こちらの医師の照井の。

飯高 (河合をどかして前に出て) 照井先生にはいつも大変お世話になっております。

河合 え、照井先生のお母様だったんですか。

照井母 そう申し上げておりましたけど。

河合 すいません。

飯高 ですよええ。(河合だけに) ま、河合ちゃん、マニュアル通り完璧だったけどね。

照井母 (病棟を見渡しながら) 冴、今日、病棟ですよええ。

飯高 いや、それが。

照井母 それが。

飯高 お母さん、もしかして照井先生のマンションに行かれました？

照井母 ええ。

飯高 そちらにはいらつしやらなかつたんですか、照井先生。

照井母 マンションの応答がなかつたので、こちらに来たんですけど。

河合 やばくないですか。

照井母 やばいって。

飯高 お母さん、美味しそうな桃すごく嬉しいんですけど、ここって患者さんの目がある

じゃありませんか、だから、河合が申した通り、ご遠慮いただいた方がよろしいかと。

照井母 迷惑だとおっしゃるの。

飯高 迷惑ってわけじゃないんですけど。

照井母 冴が、照井がそう言えと申したんですか。

飯高 照井先生は全然関係ないです。

照井母 あの子、電話全然出てくれなくて、ちっとも様子が分からないんです。

飯高 私も同じです。三十近くなると、親の電話ってけっこううざくて。

照井母 うざくて？

飯高 私の話ですよ、私の。

照井母 何にもできない癖に、変な意地張ってるんですよ。

飯高 いや、照井先生はなんでもできる人ですけどね、病院では。

照井母 あら大したことないんですよ。ほんとに何にもできない子で。

仙波、マリア、めいの車椅子を押しながら戻ってくる。

仙波 (照井母を見つけて) あら、照井先生のお母さん。

照井母 仙波さん、いつも娘がお世話になっております。

仙波 今日、照井先生は？

照井母 病棟ですよええ。

仙波 (話を交えて) 桃、おいしそうね。

照井母 有機栽培で大切に育ててるの。

仙波 いつもありがとうございます。河合さん。

河合 はい。

飯高 (河合に向かって) 休憩室、休憩室。

河合 休憩室に持っていきます。

河合、桃を持って休憩室に向かおうとする。

マリア 私アレルギー、桃、無理！

河合 (マリアに) それは失礼でしょ。

マリア 何で失礼？

飯高 マリアは食べなくていいから。

河合、退場。

照井母 あら、お口に合わないものをごめんなさいね。

マリア (照井母に) おっけー。

仙波、マリアを制止する身振り。

照井母 仙波さん、良ければ冴にも食べさせてやってくださいな。

仙波 照井先生に。もちろんです。

照井母 よろしくお願いします。あの子の好物なんですよ、桃。

仙波 知りませんでした。

ナースコールが鳴り、飯高、応答し、退場。

仙波、周囲が気になるかのように周囲を見回すが、照井母には微笑を絶やさない。

照井母 桃の産毛見てるとね、思い出すの、冴が小さかった頃。口いっぱい桃をほおばって。

仙波 照井先生にもそんなときがあったんですね。

めい 照井先生、桃、大好きなの。

照井母 ええ。桃、大好きなの、あの子。

マリア ミス・テリーママ、ミス・テリーミッシング、知ってる？

千羽鶴を手に戻ってきた森、照井母に気づき、慌てて、千羽鶴で顔を隠す。

照井母 ミッシング？

マリア ミス・テリーいないよ。

仙波、マリアを止めようと手を出す。マリア、ハイタッチだと思い、仙波の手を叩く。

照井母 (森に気づかず) いないよ。冴、いないんですか。

仙波 今朝から、連絡が取れてなくて。

照井母 マンションも、物音ひとつしませんでしたよ。

仙波 行かれたんですね。

照井母 でも、あの子、鍵を渡してくれないから。

仙波 大人ですからね。

照井母 どこかで倒れてるかも。この病院、全然お休みくれないから。

仙波 照井先生が休まれないんですけどね。

照井母 冴が勝手に働いてるって言うんですか。

仙波 照井先生、患者さん思いだから。

照井母 冴、大丈夫かしら。

仙波 私たちも心配で。

照井母 搜索願い出したほうがいいですよね。

仙波 (前のめりの照井母を宥めるように) お母様。とりあえず心当たりのところ当たっていただいてもいいですか。

照井母 もちろんです。(バッグの中を探りながら) 電話。

照井母、スマホを取り出し、電話をかける。

河合、休憩室から帰ってきて、仙波に耳打ちする。

河合 主任、ベッドの確認お願いします。

仙波 行きましょう。(照井母に) ちょっとごめんなさい。

仙波、河合、病室に向かって退場。

ナスステーションのテーブルで電話が鳴り、飯高、電話を照井母に渡す。

マリア ミス・テリー、スマホおきっぱ、デフォルト。

照井母 昔っから本当に抜けてて。

マリア ヌケテテ？

照井母 (画面の通知を見て) 「僕はそれでも、産んでほしい」

マリア・飯高 「産んでほしい」

千羽鶴をめいに手渡した森、やっちゃったという顔をしている。

照井母 消えちゃった。これ、もう一度表示させる方法知りませんか。

飯高 通知ですね。でもいいのかな。

めい お母さん、見ちゃだめ。

マリア うん。ダメ。

照井母、声をかけたためいの方を見た瞬間、森を見つける。照井母と森、見つめ合う。

照井母、森に近づき、声を落として問う。

照井母 なんてあなたがここにいるの。まさか冴まだあなたと。冴に何があったの。どこ

いるの。

森 ご無沙汰してます。僕も冴さんがどこにいらっしやるかわかりません。失礼します。

飯高 (ボソツと) 接点は何。

マリア (飯高に) なになになに。

飯高 照井先生のお母さんとめいちゃんの先生、関係ある？

森、車いすの向きを変えようとしたとき、めいの手から千羽鶴が落ちる。

森、落ちた千羽鶴を拾おうとするが、うまく拾えない。照井母、不快な表情で見つめる。

照井母 私がやります。

照井母、千羽鶴を抱え上げ、めいに渡す。

森 すみません。ありがとうございます。

照井母 (声を落として、森に) これはあなたから？ 「産んでほしい」って。

森 はい、私です。

森、うなずく。照井母、崩れ落ちる。

飯高 この人と？

マリア ミス・テリー？

めい 大丈夫？

溶暗。

#8 回想⑤無理

失踪前日十九日夜。森と照井が電話で話している。森は自宅、照井は病院の屋上から。

森 父親かあ。僕の子どもが生まれてくるんだあ。

照井 なにやってんだろ、私。

森 ん？

照井 あの日の自分が恨めしい。

森 冴、僕と結婚しよう。遅くなって、ごめんね。

照井 ごめん。

森 なんて。

照井 私は無理。

森 僕は森。(自分のギャグに笑い出す)

照井 だから産まないから。

森 何、それ。産まないって。

照井 傷つけたくないし、傷つきたくないから。

森 意味分かんないよ。

照井 とにかくもう決めたから。話したくない。

森 僕だって、離したくない、冴を。

照井 元ちゃん。  
森 もしかして。  
照井 何。  
森 いやいいんだ。  
照井 何よ、言っつてよ。  
森 いや、ちよつとした被害妄想っつていうか。  
照井 元ちゃんのせいじゃない。  
森 (肩を落として) やっぱりか。  
照井 なんだ。  
森 そうだと思つたよ。その子にも障害があるかもって思つてるんだよね。  
照井 なんでそんなこと言うの。障害とか、関係ないから。  
森 早期胎盤剥離だつたんだ。  
照井 そんなこと、今、聞いてないよね。  
森 酸素が足りなくなつて、脳の一部が死んだんだ。それで、麻痺が残つた。  
照井 だから何。関係ないっつて言つてるよね。全部私のせい。  
森 お母さん？  
照井 母は関係ない。私の話だから。そう、私の話。(胸を掻きながら) だけど十五年経つても飼ひ慣らせない。  
森 何を。  
照井 自分でも分かんないの。母のせいだと思つた。でも、違う。結局私なの。私の胸にどうしようもないものが蠢いてるの。  
森 その正体は何。  
照井 だから、分かんないっつて言つてるじゃん。結局私は母と同類つてこと。周囲に怯えながらマウントをとる醜悪な欲望の塊。  
森 マウント。ポストン行き、まだ諦めきれないとか。  
照井 どうせ。元ちゃんには、わかんないよ。  
森 次のチャンス、狙えばいいよ。  
照井 次のチャンスなんて。あるのかな、私に。  
森 冴がやりたいようにやったらいいよ。僕が支えるから。  
照井 調子のいいこと言わないで。  
森 なんだよ、それ。  
照井 元ちゃんはいっつもそう。目の前の人放つとけないんだよね。  
森 それが問題？  
照井 目の前の人を助けるために自由でなくちゃいけないんだよ。  
森 僕は目の前にいる冴を、僕たちの赤ちゃんを助けたいよ。ねえ、冴。僕には自分の子どもに生きてほしいっつて言う権利はないのかな。  
照井 男はいいよね。失うものはないから。  
森 冴は失わなくていいんだよ。僕が支えるっつて言ってるじゃん。  
照井 代わりに産んでくれるの。  
森 それは無理だけど。  
照井 お願ひ、自由にさせて。  
森 今、どこ。  
照井 やめてよ。

森 まだ、病院？  
照井 絶対やめてよ。

森 こういうことはちゃんと顔を見て話さなきゃだめなんだって。  
照井 そういうのが嫌なの。

森 そういうのって。

照井 距離感が違うの。

森 僕はずっと冴のそばにいたい（ふと気づいて）冴、僕のことを恥ずかしいの。

照井 （首を横に振るが、声にならない）

森 周囲に怯えてるって、僕との関係を知られること。

照井 （言葉にならないまま、首だけを必死に振っている）

森 僕たちの十五年は何だったのかな。

照井 ごめん。でも、無理。私は産めない。

森 冴は赤ちゃんを殺すっていうの。冴は小児科医なのに。

照井 殺す？

通話の切れた音。 溶暗。

#9 失踪の日④救急搬送

#7の続き、飯高、マリア、森、めいに囲まれて、照井母が倒れている。

マリア ミス・テリー、ベイビーいる？

飯高 しっ。

救急車の音が鳴り響く。

森 こんな形で知られることを望んでないと思いますけど。

照井母 あなたのでいで冴は。

めい 照井先生のお母さん、そんな悲しいこと言わないで。先生たち、可哀想。照井先生  
帰ってきて。

マリア Yes! I miss Terri.

電話が鳴り、飯高が応答する。

飯高 はい、小児科病棟、飯高です。照井先生が救急搬送。意識レベル1。びっくり丘高  
校。屋上に。

照井母 冴、冴は大丈夫なの。屋上ってどういうこと、死んでないわよね。

溶暗。

#10 回想⑥（高校時代）自由

びっくり丘高校屋上。びっくり丘高校の制服を着た照井が柵を掴み唸っている。

照井 うおおお。いっそ虎になりたい。みんな、食いちぎってやる。（吠える）



ぴっかり丘高校の制服を着た森、照井の唸りを聞き、持っていた楽譜をばら撒く。

森 うわっ、なにやってんの。

照井 何って。

森 だめだよ。

照井 何が。

森 僕のために生きて。

照井 え。

森 え？

照井 え？

森 え？

照井 え？

森 (照井の表情を読み取ろうとして) え、違った？

照井 キモいよ。(失笑) 私もキモいか。

森 え。

照井 いや、聞いてないならいい。

森 唸り声。

照井 聞かれたか。

森 どうしたの。

照井 (柵につかまる) 虎になりたくて。

森 (柵につかまる) 虎。

照井 山月記。

森 さっきの授業？

照井 自分のこころとところに蠢いてる気がして。尊大な羞恥心と臆病な自尊心。

森 (笑いながら) なんか中二病っぽいよね。

照井 え。

森 (再び照井の表情を読み取ろうとして) あれ、違った？

照井 なんか。いや、いい。で、あなたは、誰。

森 僕？

照井 (頷く)

森 同じクラスの、元気もりもり森元気です。

照井 へえ。

森 あ、へえか。

森、少し落ち込みながらも自分を納得させるように拳を握る。

照井 なんで？ 僕のために生きてって。

森 なんか遠くに行っちゃいそう。

照井 (少し笑って) 行きたいな、遠くに。

森 ミス・テリーはどこに行きたいの？

照井 (遮るように) その呼び方、嫌い。

森 ごめん。みんながそう呼んでるから。

照井 高飛車で嫌な女につけるニックネームでしょ。  
森 そうなの。

照井 友達にはつけないあだ名じゃない？  
森 友達、いないの？

照井 いいの。合わせるの、好きじゃないから。

森 ミス・テリーってあだ名、僕は、照井さんっぽくて、好きなんだけどな。

照井 私が高飛車だって。

森 違う違う。そうじゃなくて。どうしよう、うまく言えないな。なんか、ちょっと近づきがたくて、ずっと遠くに行ってしまうような、謎めいてる、ミステリーなんだよな、僕には。

照井 ミステリーか。どっかに行っちゃいたい。

森 どこ行きたいの？

照井 どこかな？ 自由になれるとこ。

森 自由じゃないの？

照井 自由なの？

森 (体を動かしながら)僕は、自由だ。

照井 そういうんじゃない。

照井が笑う。森もつられて笑う。

森 ごめんごめん。でも、笑ってくれた。

照井、むっとする。

森 照井さんの笑った顔、ゲット。

照井 だから、そういうの、キモい。

森 キモイって。でも、嬉しい。笑ってくれて。

間。

照井 (柵を掴んで)これじゃあ、動物園の虎だね。周りは、柵だらけ。悲しい虎。

照井、暗い表情になる。

森 柵。(踊りまわって)「こっちは、ないよ、柵。君は自由だ。

照井、吹き出す。

森 ずっと見てたんだ、照井さんのこと。

照井 マジ、キモいよ。

森 ごめん。でも、嬉しくなっちゃった。

照井 幸せだね。

森 うん。めっちゃ、幸せ。

照井 (柵から離れて) そっかあ、こっちは柵、ないかあ。  
森 うん。  
照井 自由かあ。  
森 一緒に自由になろう。こっちにおいでよ。

森、両手を広げる。

照井 何様。  
森 元様です。

照井、落とした楽譜を拾い集める。

森 ありがとう。  
照井 音楽やってるの？  
森 小学校の先生になりたいんだ。だからピアノ練習しなきゃ。  
照井 なんで？  
森 なんでも教えなきゃいけないんだよ、小学校の先生って。  
照井 そうじゃなくて、なんでそんなに簡単に人生決められるの。  
森 簡単に見える。それは光栄だな。

森、楽譜を受け取る。

森 ありがとう。

照井、不自然に曲がった森の右手を触る。森、驚いてまた楽譜を落としてしまう。

照井 もしかして右手不自由なの？

森 僕は自由だよ。

照井 すごいね。

森 うん。(キーボードを出して弾き始める) 僕を誰だと思ってんの。

照井 森元気。

森 そう、元気もりもり森元気。

#11 失踪の日⑤謎解き

救急車の音が鳴り響く中。照井を呼ぶ声が聞こえる。(溶明)

七月二十日夜、病院の屋上。車椅子に乗って街を眺める照井を森が見つける。

森 冴？良かった。冴が、生きてる。

照井 私も死ぬかと思った。

森 熱中症って。

照井 医者のかせに面目ない。

森 僕はいつも冴に熱中症だけどね。

照井 え？

照井 迷感かけちゃったよね。  
 照井 僕こそ、ひどいこと言ってごめん。  
 照井 元ちゃんが悪いんじゃないから。全部私のせいだから。  
 照井 冴は、いっつも。  
 照井 いっつも。  
 照井 元ちゃんは寂しいぞ。  
 照井 無断欠勤しちゃった。  
 照井 大騒ぎだったんだよ。お母さんなんて悲鳴上げて倒れたんだから。  
 照井 あの人らしい。  
 照井 お母さんはお母さんでいつまでも冴のことが心配なんだよ。  
 照井 (苦笑い)  
 照井 (桃を差し出し) はい、これ。大好物なんですよ。お母さんから。  
 照井 実は、嫌いなもの。  
 照井 え。  
 照井 なんか、痒くならない？ 口が。  
 照井 難しいね。  
 照井 何が。  
 照井 距離感。  
 照井 ごめんね、ひどい言い方して。  
 照井 本当だよ、心ずたずた、森、不元気、しょぼん。  
 照井 ごめん。  
 照井 なんて閉校した学校の屋上に行ったか、聞いてもいい？  
 照井 なんかね、あの日を思い出したくなくて。  
 照井 あの日。  
 照井 元ちゃんに自由を教えてもらった日。  
 照井 僕が教えた。  
 照井 あの時もさ、自由なんてないって思ってた。近くにあったのにな。  
 照井 でしょ。  
 照井 屋上で寝っ転がって星見てたらさ、めっちゃ自由な気がしてきた。  
 照井 そりゃそうだよ。(寝転がって) こんな風に世界見たら、全世界自分のもんだ。  
 照井 自由なんだって思ったら力が抜けて、いつの間にか寝ちゃってて、気づいたときは  
 照井 夜が明けてて。  
 照井 疲れてんだよ。  
 照井 日差して目が覚めて、仕事行かなきゃって焦って戻ろうとしたらドアノブが取れち  
 照井 やって。  
 照井 ええっ。  
 照井 気温はどんどん上がるし、水分は全くとれないし。生きてたって幸せなことなんて  
 照井 全然ないって思ってたのに、必死で藻掻いている自分に呆れちゃった。  
 照井 藻掻いてくれてありがと。  
 照井 元ちゃんのためじゃない。  
 照井 良いんだよ、生きててくれたら。  
 照井 すごいね。

二人、見つめ合う。

森 どうやってドア開けたの。

照井、聴診器を見せながら。

照井 これ。

森 聴診器、病院の外でも持ってるの。

照井 置いてくの忘れただけ。

森 冴らしいね。でもよかった。

照井 ドアと格闘してる間さ、こんなことしてこの子に悪くないって考えちゃったんだよね。もう産まないって決めてたのにさ。

森、照井の肩に優しく手を置く。照井も森の右手を取り、お互い見つめ合う。

照井 赤ちゃん産んだらさ、自由を奪われるじゃない。

森 そうかもね。

照井 産んだらずっといるんだよ。

森 そうじゃないと困るよ。

照井 なんか、怖い。

森 そっか、冴はズットが怖いのか。

照井 怖くない？

森 ううん、わくわくする。僕はズット一緒にいい。

照井 能天気。

森 大丈夫。(照井の手の桃を取り上げて) その「こ」は僕が引き受ける。そしたら、

照井 「こ」わくないでしょ。二人で、わくわくだあ。

森 キモイよ。

照井 え？

森 え？

照井 ん？

森 ん？

照井 ん？

森 キモイよ。

照井 久々のキモイよ、いただきました。

森 (笑って) 元ちゃんはいいいね、迷いがなくて。私は迷ってばかり。

照井 僕は迷う余裕もないから。

森 私、結局、すごいねって認めてもらいたいただけなんだよね。この醜悪な欲望のせい

照井 で、自分から不自由になってる。あの時も、今も。

森 僕はズット思ってるよ。冴は本当にすごい。

照井 すごいのは元ちゃんだよ。本当に、ごめん。

森 ふふん、僕を誰だと思ってるの。

照井 元ちゃん。

森 (ときめいて) キュン。(胸に刺さった矢を抜くかのようなアクションをして) デュクシ(指輪を差し出すかのようなポーズで桃を差し出し) シュタツ。僕の物語には冴とその子が必要なんだよ。

照井 物語。

森 うん。冴の物語にもきつと。

照井 馬鹿だよ、私。全部捨ててトラになろうとした。

森 なになに、我が子を谷に落とすって？

照井 それはライオンね。

森 虎穴に入らずんば虎子を得ずか。

照井 ああ。

森 どんな困難があろうとついていくよ。その子を産んで欲しいから。

照井、俯く。

森 冴は頭いいから全部分かってないと気が済まないんだよ。でも、人生は分からないことだらけ。

照井 ミステリー。あの頃の私たち、今の私たちを見て、何て言うんだろう？

森 ミステリー、楽しんでるじゃんって。

照井 これから、どんなミステリーが待ってるのかな。

森 怖い？

照井 うん。でもわくわくにくしてくれらるんですよ。

森 うん。もしかしたら、その子にも大きな障害があるかもしれない、僕みたいに。

照井 怖い。

森 (頷きながら) 謎解きの書をゲットしたんだ。

照井 謎解きの書？

森 こんなちっちゃな手帳なんだけどね。「元気は、他の子と同じように成長できるのか」、「周囲に理解してもらえるのか」、泣き言だらけだった。だけど、どんどん出てくるんだ、謎解きの呪文。

照井 謎解きの呪文。

森 「元気が突然駆け出した」、「元気が右手で私を掴んだ」、「元気がボタンを自分でとめた」、「元気がおもちのピアノを弾いた」

森、照井を振り返る。

森 右手足は不自由になったけど、僕は自由だ。

照井 うん。

森 母さんが言うんだよ。「元気、生まれてきてくれてありがとう」だから、僕は思うよ。「生まれてきて良かった」。

照井 私も言ってみよう。

森 冴、生まれてきてくれてありがとう。

照井、声をあげて泣き出す。

#12 失踪の翌々日 必死

七月二十二日朝。小児科病棟。相変わらず忙しそうに働く照井の後を矢田が必死で追いかける。ナースステーションには、河合、飯高、マリアが忙しく働いている。ナースコールが鳴り、マリアが出る。

マリア はい、ドウシマタ？ テンテキオワタ。OK。

仙波が戻ってくる。

仙波 私が行くわ。誰。

マリア 506、お、の、ゆ、う、き、オトコ。

仙波 小野友樹くんね。

マリア お疲れ。

仙波 お疲れ。

河合 いいね。

看護師達、楽しそうに笑い合う。

矢田 ちよつと、照井先生、待ってくださいよ。病み上がりからのフルスロットル、正気ですか。

照井 あなたはあなたのペースでどうぞ。  
矢田 え。

河合さん消毒セット、片づけておいてくれる。

了解です。

上原 照井くん、体調はどう。

照井 大丈夫です。ご心配をおかけしてすみません。

上原 照井くん、体を大事にしなきゃね。

飯高 (ボソツと) パワハラ突然のご機嫌伺い。

矢田 上原先生、イクボス宣言ですか。

上原 照井君は将来のお客様を産んでくれるんだよ。それはそうと矢田くん、しっかり習っておいてよ。君がこの小児科を担っていくんだからね。

矢田、喜ぶ。看護師達からは悲鳴の嵐。照井、聴診器をぎゅっと握りしめる。

矢田 (歓声を上げ) ヤホー。(ナースステーションに近づき) 河合ちゃん聞いた？

河合 頑張ってください。

矢田 よしっ。

矢田、ノリノリで外来に向かい、退場。

めい、照井を見つけ呼ぶ。めいのベッドには、鶴が散らばっている。

めい 照井先生、ごめんなさい。

照井 めいちゃん。心配かけてごめんね。

めい 手帳、見たの。

照井 めいちゃんのとこに忘れてたんだ。うっかりでごめんね。

めい 死って書いてた。

照井 死？

めい 先生、死にたかったの？ 赤ちゃんができたから。お母さんが反対だから。

照井 なんで知ってるの？

めい 照井先生死んじゃうのかと思って、すっごく怖かった。

照井 心配かけてごめんね。

めい 鶴、折ったの。祈りは届くって、矢田先生が言うから。届いた？

照井 届いた。私ね、(めいの帽子のマスコットを触りながら) めいちゃんのおかげで、もどってこれたの。

めい どういうこと。

照井 (マスコットのついた聴診器を差し出して) これに救われたんだ。めいちゃんのお守りのおかげで、開かなかったドアが開いたの。

めい そうなの？

照井 ありがと。

マリア (突然影から現れて) めいちゃん、ヒーロー。ミステリー助けた。

照井 ああああ。死。マリアだ、死。

マリア 死？

照井 一タヒ。必死。

マリア 心にえい、で、一タヒ。

照井 めいちゃん、あれ、マリアに漢字教えたの。必死って漢字。

めい 必死？

マリア (自分をさして) 必死でやってるよ、いえい。

照井 必死でやってますって、フィリピンの彼氏に日本語で書きたかったんだって。

めい 先生、必死って、必ず死ぬって書くんだね。

照井 そうだね。気づかなかった。

めい あれ、嘘だから。生まれてこなければいって言ったの、嘘だから。

照井 (めいをしっかりみつめて) 私、めいちゃんに会えてよかった。めいちゃん、生まれてきてくれてありがと。

めい 大好き。

めい、照井の胸に飛び込む。照井、めいを抱きしめ返し、微笑む。  
心音が鳴り響く。

幕